

卓話『心のバリアフリー 信州型の介護』 牛山玲子様

◆会長挨拶

本日は、出席委員会担当の卓話になります。講師は、ユニバーサルサポート諏訪の代表牛山玲子様です。皆様あたたかい拍手をお願い致します。内容は心のバリアフリー・信州型の介護ということで、我々には非常に身近なお話ではないかと思えます。興味深く拝聴させて頂きたいと思えますのでよろしくお願い致します。後ほど、出席委員会の宮下委員長よりご紹介頂きますのでよろしくお願い致します。

15日の土曜日、岸田総理の街頭演説中に爆発音が響きわたるといふ大きな事件が発生してしまいました。総理が無事であったこと、また重傷者がでなくて良かったという思いはございますが、日本でこういった事件が続いてしまうことは大変残念に感じます。世界も少しばかりギクシャクしております。平和であれと願います。

同じく土曜日長野のビッグハットに行って久しぶりに大規模な展示会を拝見させて頂きました。エコの野口会員の岡谷酸素さん主催の「オカフェス」です。大盛況で「企業向け」の出店だけでなく、地元の生産品のブースにお子様も楽しめるエリアもありご家族で参加されている方々も多く元気をもらえました。私ビッグハットは初めてで、会場のオリンピックの五輪マークを見ましたら25年前の長野オリンピックを思い出しました。オリンピックの時にはビッグハットだけでなく、なんと聖火も拝めずの帰宅となってしまったのですが、楽しい思い出がございます。チケット争奪戦で手に入ったのは女子一人乗りリュージュのみ。競技もよくわからないまま応援に出かけたのですが、リュージュというのはパーンというスタートの合図が聞こえますとゴオーッと爆音だけが耳に残り目の前を通過する選手はかろうじて色がわかる程度で過ぎ去ります。スピードが速ければ速いほど見えません。ほぼ何も確認できず過ぎ去った選手が当時の世界新記録で金メダルの表彰台に上りました。観戦場所のお隣にはドイツのTVクルーの方が撮影されていて、一緒に撮った記念写真がアルバムに残っております。帰りの電車は満員で座ることもままならないありさまでしたが、隣あわせた外国の方が大変流暢な日本語を話す方で、まだ小さかった私の息子を見るなり「お父さんにそっくり！」と息子の帽子に笑顔でピンバッチをつけてくれました。その方は長野の次の「ソルトレイクオリンピック」の関係者の方で、長野ではホテルが確保できず松本に滞在されながら、オリンピック期間中毎日長

野に通われているとお話でした。小さな国際交流でした。

本年度もおかげさまで残り2か月程となりました。まだまだ計画されております活動もございますが、終わりました事業に対しまして結果をまとめる時期にもなって来ました。

昨年の今頃は御柱祭が本当にできるのかと皆が不安になる中、トラックによる山出しを決め、出来る限りの参加方法で里引きを行いました。コロナ禍で不安の中の3年でしたが、ようやく前が見え始めたようにも感じます。殆どオンラインの会議も対面にもどりつつありますが、オンラインの合理性もいかながらの日常の進め方を模索できたら良いのではとの思いもあります。

◆ゲスト ユニバーサル・サポート 代表 牛山玲子様

◆幹事報告

- ・4月24日(月)・5月1日(月) 準法定休日 / 5月8日(月) 担当：国際奉仕委員会
- ・5月8日(月) 例会前11時～ 今年度理事会開催
- ◆次年度 幹事報告 吉池会員
- ・5月8日(月) 例会後1時30分～ 新旧理事会開催

◆委員会・同好会報告

《職業奉仕委員会》

- ・若者未来就職応援事業(市内中学校出前講座) 岡谷市より講師依頼 西部中学校

《社会奉仕委員会》

- ・4月21日 今期自然の玉手箱 保護者説明会
- ・4月29日(土) 今期第1回自然の玉手箱開催 8時15分 川岸小学校集合 ※出欠表回覧

《酒食学》

- ・5月28日(日) 9時～16時 蕎麦打ち 場所：マリオ ※出欠表回覧

◆卓話

- ◆『心のバリアフリー 信州型の介護』
諦めない人生のお手伝い「できることではなく、やりたいことを」
牛山玲子様

〈ユニバーサルツーリズムとは?〉



すべての人が楽しめるよう創られた旅行であり、高齢や障がい等の有無にかかわらず誰もが気兼ねなく参加できる旅行を目指す！できない理由を考えるよりどうやったらできるかを考える

〈トラベルケアサポーター〉

①「ひとを日本を元気にする仕組み」

地域T/Sの資格+介護資格医療資格

要介護高齢者、支援を必要とする方、障がい者（児）などの外出支援、「旅行」の実現、入浴（温泉）支援
旅行会社、ホテル、旅館、個人、ケアマネ、施設関係者
⇒トラベルケアサポーターユニサポすわ⇒ 看護師・介護福祉士、医療従事者、介護初任者研修終了以上実務経験、旅行・外出支援のサポート（知識・実技）

②「まちを元気にする仕組み」

旅や外出支援のお手伝い（温泉入浴、食事介助、身体介助、観光地巡り、日帰り旅行・家族旅行、コンサート・映画）⇒トラベルケアサポーターユニサポすわ⇒ライフイベントのお手伝い（ドライブ・移動、冠婚葬祭・お墓参り、お食事・近隣の外出支援、施設・病院の一時帰宅、転院・退院支援など、福祉相談・福祉教育）

障がいの有無にかかわらず、誰もがお互いに人格と個性を尊重し、共に支え合う「共生社会」を実現するためには、様々な心身の障がいを正しく理解し、必要な配慮を考えていくことが必要です。

- ・高齢や障がいがあっても、外出や旅行に行きたい、連れて行ってあげたいと思っている
当事者やご家族が、「そもそも無理だ」「家族に迷惑だから」など、やりたい出掛けたい気持ちに蓋をしてしまっているという現状がある。
- ・誰もが「人生=夢」を諦めることなく、心豊かに暮らしを楽しめる環境づくりを推進していきたい。
- ・観光施設、宿泊施設等でのユニバーサルの対応に温度差がある。
- ・地域全体での意識の共有、向上が必要。
- ・『多様性を尊重する共生社会づくり』につながる、人権教育、インクルーシブ教育を行いごちゃまぜな社会を実現したい。

〈心のバリアフリーとは？〉

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相



互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです。一人一人が具体的な行動を起こし継続することが必要です。

心のバリアフリーの理解がない、障がいのこと（何が困るのか）を知らないために相手の立場にたてない

◎長野県「信州あいサポート運動」サポーター 約64,000人／認定企業・団体 令和5年4月現在156団体
長野県民の約12.22人に1人が何らかの障がいを抱えておられます。

外見からは分からない障がいもあります（聴覚障がい・内部障がい・精神障がい・難病）

障がいは誰にでも生じるもの（身体障がいの半数は18歳から64歳の間の病気や事故によるもの／うつと診断されるのは国民15人に1人）障がいは多種多様、一律ではない（障がいの程度、障がいが生じた時期による違い）

◎困っていきそうな方を見かけたら

※声をかけてみましょう

- ・相手の立場、目線で向き合う→言葉がスムーズに出ない人の子供扱いしない。車椅子利用者と同じ目の高さで話す。
- ・驚かせないように、まずは一声かける→「なにかお手伝いできますか？」などと声をかける。
- ・何をしてほしいか、聞く→必要なことは人それぞれ異なる。

※でも決して無理はしないようにしましょう

例えば、急坂で車いすを押すなど「ちょっと自信がない」と思ったら、まわりの人に声をかけて手伝ってもらおう。



ラッキーナンバー・ニコニコBOX・出席報告

■ラッキー NO.86 小松市男会員

■ニコニコBOX 52,000円

■出席報告

会員数 46名 出席 30名 欠席 16名

出席率 65.22% 訂正 91.11%

ニコニコするメッセージをお寄せ下さい

今週のプログラム 5月8日(月) PM0:30

マリオ/卓話 左近健一郎氏・国際奉仕委員会

次週のプログラム 5月15日(月) PM0:30

マリオ/卓話 坪井大輔氏・職業分類会員選考